

国際交流

平成 9 年 9 月 30 日 創刊
 平成 29 年 3 月 31 日 発行 (第 39 号)
 二松学舎大学国際交流センター
 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16
 Tel:03-3261-5751

◆目次◆

二松学舎大学文学部と海外 3 大学との合意書締結 1

派遣留学修了報告

文学部 4 年 破魔 仁美 (北京大学派遣) 2

文学部 4 年 玉地 雄太 (中国文化大学派遣) 2

交換留学生留学修了報告

浙江工商大学 王 妹藤 3

浙江工商大学 顔 龍龍 4

浙江工商大学 程 璐璐 4

浙江工商大学 畢 佳佳 5

平成 28 年度秋 Semester 交流会実施報告 5

附属柏高校との交流会 6

平成 28 年度第 13 回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催
 6

学長賞受賞スピーチ

交換留学生 (台湾・中国文化大学) 孫 季榆 7

平成 28 年度国際交流年末懇親会報告 8

平成 28 年度海外協定校教職員相互訪問制度に基づく教職員の来訪
 8

国際交流センターからのお知らせ 8

二松学舎大学文学部と海外 3 大学との合意書締結

《平成 28 年度新たに 3 大学と交流協定締結》

平成 28 年度に、以下の 3 大学と新たに交流協定を締結しました。

- 平成 28 年 9 月 リール第三大学 (フランス)
カ・フォスカリ大学 (イタリア)
- 平成 28 年 12 月 釜山大学校 (韓国)

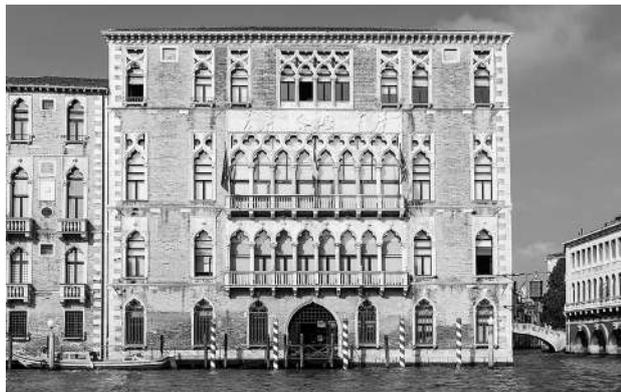


フランス国立リール第三大学

これにより、現在の海外協定校は 12 大学となりました。今後も海外協定校の拡充を積極的に行うと共に、実りある国際交流活動を推進してまいります。

《韓国・釜山大学校にて調印式を実施》

左から、塩田今日子国際交流センター長、チョンチュルホン 佔畢齋研究所所長、チョガンヒ 人文大学長、江藤茂博 文学部長・文学研究科長



イタリア国立カ・フォスカリ大学



釜山大学校 (韓国)

派遣留学修了報告



中国・北京大学

文学部 4年 破魔 仁美

私は2015年の8月から2016年の8月まで交換留学生として北京大学に一年間留学しました。北京大学の授業は前期と後期の二学期制で構成されていて、私は前期に对外汉语学院で中国語を勉強し後期は中国人の学生と同じ授業を受けました。

まず对外汉语学院は最初にクラス分けテストがあり、そこで中国語のレベルによって初級、中級、上級に分けられ、それからまた各級の中でもレベルによって1、2、3に分かれます。私は一番上級の上級3レベルの22班に分けられ、クラスは14人のとてもグローバル的なクラスでした。日本人や韓国人、アメリカ人はもちろん南アフリカやフランス人、ロシア人もいてみんな中国語が驚くほど発音が良くペラペラです。私たちは国も年齢も職業も異なるため授業中は例え同じテーマについて語るにも意見が様々なため授業がとても盛り上がりました。先生とも非常に仲が良く、授業中はお互いの意見や考えを自由に交換し合い、休みの時はみんなでよくご飯や遊びに出かけました。

私が对外汉语学院で勉強をした上級3レベルの中国語は大変難しく私の想像をはるかに超え、普段全く見ないような単語や熟語が沢山あり、最初は私を含めみんなとても苦労しました。必修科目の上級漢語と上級口語の他に選択科目があります。私は貿易関係の仕事を希望しているためビジネス中国語を選択しました。ビジネス中国語の授業は毎回単語テストや宿題があり大変でしたが私にとって一番役に立つ授業になりました。

私は前期の勉強を对外汉语学院でする事をおすすめします。なぜなら汉语学院での勉強は中国語が上達するだけでなく、自然に様々な国の留学生と接し異文化に触れ合える事ができます。実際に私も友人たちやクラスメートから良い影響を受け自分の世界観や物事に対しての考え方、価値観が大きく変わりました。自分の視野を広げる良いチャンスだと思います。

私はHSK6級を取得したため後期には本科の生徒と同じ授業を受けることができ、主に中国の歴史や文化、文学についての授業をたくさん選択しました。もちろんですが本科の先生は汉语学院の先生と違い留学生が授業を受けているからと授業のペースを下げ、優しい言葉で授業をしてくれません。先生によっては言葉に方言のなまりがあり留学生にとって少し難しい部分もあります。私が一番印象に残っているのは古代文学選読の授業でその担当の先生が授業の説明に使う中国語があまりにも難しく内容が理解できない時がありました。

北京大学は一学期の中で中間と期末のテストがあります。二松学舎の授業のテストはレポートか筆記試験のどちらかが成績の点数となるのがほとんどに対して北京大学はレポートも筆記試験もある科目が多いにあります。レポートの合格基準も厳しく授業によってはそれにプラス発表や課題もありとても大変です。私は一時期レポートやテスト勉強に追い込まれ単位を諦めそうになりましたが最後までやりきりました。

留学した一年間はあっという間に過ぎてしまいました。時間が経つのを速く感じるのには留学生活が楽しいからだと思います。この一年間で私は中国語だけでなく英語も以前より上手くなり、さらに友たちから少しだけロシア語も学びました。HSKのスコアも留学する前に比べ10点近く伸び本科の授業で中国の歴史や文化についての知識を広めることが出来ました。しかし私にとって一番大事なことはこれらではありません。私にとって一番大事な事、それは中国人と同じような生活をする事で中国という国をより深く知ることができました。この一年間は私にとってとても貴重な体験になり、この機会を下された先生方に感謝します。



クラスメイトと（筆者左から3番目）



台湾・中国文化大学

文学部 4年 玉地 雄太

「日本って素敵南国だなあ。」私は今回、1年間の台湾留学の中で、「日本」の魅力を改めて感じました。

では、台湾はあまり魅力が無い国だったのか、もちろんそれは違います。

私は留学生活の中で、台湾人の親切さや台湾という国の温かみに触れ貴重な時間を過ごす事が出来たと思います。特に台湾は日本統治時代があった事からどこか日本と似ている雰囲気があり、私自身不自由なく落ち着いた日常生活を送る事が出来ました。また、台湾は比較的親日という事から日本人の私に対して老若男女問わず優しく接してくれたり、日本語を勉強している学生から多くの声をかけられたりしました。私が留学し始めの頃、十分な語学力と自信が無くなかなか台湾人と交流が図れなかった際に、多くの台湾人の友人が励ましの言葉と共に、語学交換を積極的に行ってくれました。今、台湾留学が無事終了し、語学力が向上した私がいるのは、まぎれもなく温かく私を迎えてくれた台湾、そして台湾人の方々の支えがあったからです。

交通、環境や食事の面から見ても生活しやすく、放課後市街に出かけナイトマーケットでおいしいご飯を食べたり、休日友人と野球を見に行ったり、趣味のサイクリングをしたりと毎日楽しい生活を過ごす事が出来ました。

また今回、留学を通じて学んだものは語学能力だけではありません。

アジアのみならず欧米諸国の学生と接する機会が多かったのですが、文化や価値観が異なるという点から、留学当初、欧米諸国の学生に対して苦手意識を持っていました。しかし、相手の意見を一度受け入れ、相手や相手の国をリスペクトした積極的なアプローチを心掛ける事で、多くの欧米諸国の学生とも友好関係を築く事が出来ました。

その上、現在国交関係がとても良いとはいえないお隣韓国の学生とも、当初の私の心配が嘘かの如く、素晴らしい信頼関係を築く事が出来、多くの友人を作る事が出来ました。

この様に異文化交流で様々な国の方々と接する事で、社会人となっても必要不可欠なコミュニケーションや積極性に磨きをかける事も出来ました。

さて、冒頭で述べた「日本の魅力を改めて感じました」という言葉の意味なのですが、具体的に述べますと行きが有りませんので、ひとつ。私は今回の台湾留学を終え「日本」という国をより誇らしく感じました。

それは今回、海外で生活し、異文化に触れ、新しい経験を多くしたからこそ初めて、私が生まれ育った日本に対する新しい見方や発見が出来たのだと思います。

よく日本の常識は海外の非常識という事を耳にしますが、台湾の常識に慣れた私から見て、日本の非常識は魅力に溢れているものでした。

この様に普段何気ない生活の中にも気付かぬ魅力が有る

事を身にしみて感じました。この経験を忘れずこれからも新しい事に意欲的に取り組み、多くの事を吸収していく事で当たり前の中から新しい発見を探し、より大きな人間になりたいと思いました。

また、留学をしようか迷っている学生はもちろん、日々の生活に刺激が欲しい学生や人間的に成長したいと思っている学生がいたら胸を張って言いたいです。「絶対留学に行くべし。」

最後に、今回留学するに当たり、私の志しを理解し金銭的にも精神的にも支えてくれた両親には一番感謝したいと思います。また、留学に関わって下さった教職員の方々、台湾で出会った全ての人、そして台湾には感謝したいです。本当にありがとうございました。



台湾の友人達と淡水観光（筆者右）

交換留学生修了報告



交換留学の感想

中国・浙江工商大学 王 姝 塵

光陰矢の如し、今気づいたら、もう一月になりました。最初に来た時のワクワクする気持ちは、今でも鮮明に記憶に残っています。それはなぜかという、今までと違う生活が体験できるし、色々な人と出会えるし、そして勉強にもなるのであります。留学生にとって、一番問題になるのは文化の違いとか、食生活に慣れないとかのことで、幸いなのは、そういう不便を感じたことなく、すぐ慣れてきました。

勉強上のことも徐々に進んでいます。まずは本屋で自分の翻訳すべき本を探し、そして目を通して、大体的内容を把握しました。渋い単語が多いけれども、自分なりに努力して、最後までやり遂げたいと思います。

日本にいる時間を豊かに過ごしたいから、時々友だちと一緒に旅行に行ったり、都内を観光したり、日本の景色を堪能しました。これからも北海道や、大阪や、京都などに行くつもりです。

普段生活の中で、一つの問題に気づきました。これは意外と自分の国に関する事を詳しく知りませんでした。例

えば、中国の正月はどう過ごしますかって聞かれても、家族が集まって、一緒に食事をするしか答えられませんでした。前は全然そういうことを考えたことなく、中国にいる時、文化的なものは当たり前だと受け入れすぎて、考えようとしませんでした。私がそう気づいたのは日本に来てからです。日本に来て、日本の文化に触れることは非常に楽しいことです。今は改めて自分の国の文化をしっかり身に付けるのはどれくらい大切なのか、身にしみました。これから日本にいる時間を無駄にしないよう、勉強していきたいと思います。



美しい海岸の沖繩を観光



**時よ、早い、
ちょっと待ってください**
中国・浙江工商大学 顔 龍龍

九月から1月まで、九段下の通学路の道端の銀杏も緑いっぱいから、一面の黄葉に変わって、散らかった。朝日を浴びてキラキラ輝いている黄葉もとてもきれいだった。いつか知らないうちに、一面に光に映えていた黄葉が全部散ってしまった。いつも目にしている紅葉も一片も残らず、落ちてしまった。鎌倉で紅葉狩りの時、雨に濡れた紅葉の美しさに驚きながら、紅葉の命の終わりを美しくして散る様子に感動した。今、紅葉もなく、黄葉もなく、寂しいまっ冬になってきた。こんな寂しい季節には、私の留学生活もそろそろと終わっていた。

今は振り返った、いくつのことを心に刻ぎむように残った。

十月、国際交流センター石川さんのおかげで、二松学舎大学の中国語文研究会の皆さんと知り合えた。その後、語文会の皆さんの明るさに感化されて、私の二松大学生活はだんだん明るくなった。語文会の皆さんを通じて、日本人の若者の面白い世界観、人生観、価値観を理解になった。彼らも私を通じて中国人の若者の考えを理解になった。一番忘れられないことは、ある日私たちは恋愛やファッションや、音楽など、いろいろなことについて検討して時間を忘れずに八時間続けていった。最後はみんなはしみじみと「短い、なんで時間は早くて流れていった。」という言葉話を話した。

十二月の二松学舎大学外国人スピーチコンテストに参加するために、十一月から準備して始めた、何年でも日本語を勉強しても、相変わらず自分の書いた文章に自信がなかった。だから日本人の友達に訂正してもらった。元々は普通のまま、文法のミスだけを訂正してくれればいいと思った。しかし彼はいくつの友達を呼びて文章を訂正してくれた、文法だけではなく、どうやって日本人らしいの日本語を書いた、日本人がどのようなスピーチ方式が好きだということを教えてくれた。そして毎週の水曜日、彼らは私の発音を聞かせてくれた、言葉の一つずつを聞かせて訂正していた、私も友達の優しさ、熱心な気持ちをすごく感化された。

だから最後、みんなのおかげで私は準優勝を取った、父母会賞を授賞した。ここでもし一つ言葉を言うなら。それはこの父母奨は私自分の努力だけではなく、みんなと一緒に頑



二松学舎大学中国語文研の友達とともに（筆者前列左から2番目）

張って得た大切なものだ。

この文章書いた時、心の中で「なんで時間が早くて流れていった。」という言葉繰り返して響いていた。今は私の気持ちが大体散らかった黄葉と同じだと思っていた。もし黄葉は人間の感情があったら、木から離れた時、絶対に悲しい声を出していた、その声は「時よ、早い、ちょっと待ってください。」と思っていた。



絆

中国・浙江工商大学 程 璐璐

私にとって、日本は憧れでした。

九月、この二松学舎大学の交換留学生として日本に来て、ようやく私の夢が叶いました。

最初は何もかも新鮮で、毎日ワクワクして過ごしていました。不思議なこ

とに、ここの生活にすぐに慣れることができました。

二松学舎大学で江藤先生、町先生、小山先生と松本先生の授業を受けていました。江藤先生は優しくユーモアのセンスに富んでいる先生で、いつも授業でいろいろな話題をめぐって話してくれて、たくさん勉強になりました。町先生と小山先生の授業で自分の研究内容について発表して、貴重なアドバイスをいただいて、修論は進展することができました。一番大事なのは修論に関する先行研究および資料を集めることができました。松本先生の授業では、映画を見たり、検討したり、見た感想を発表したりして、とてもおもしろくて楽しかったです。

10月に柏高校の高校生との交流会に参加して日本の高校生に自分の故郷のこと、中国の食べ物や中国の高校生の勉強生活について話して、異国文化に関心を持っている高校生の外国理解に少しでも役に立てるといいと思っています。

11月には国際交流年末懇親会に参加しました。そして、スピーチコンテストで留学生たちの話したいことを聞いて、いろいろと感心しました。懇親会の料理と酒はとてもおいしくて、懇親会でやったゲームも楽しかったです。

日本に来てから、名古屋、川越、浅草、草津や千葉に行きました。名古屋のすし、川越の街並み、浅草のお寺、草津の温泉や千葉の海、これらは私にとっては一生の思い出です。

人生はいろいろな人と事との絆からなっているのだと思いますので、留学生活はその中で重要な部分を占めています。



草津にて友人と一緒に（筆者右）



日本、またね

中国・浙江工商大学 畢 佳佳

あっという間の半年だったが、私の人生一番楽しい思い出だと思います。

この4ヶ月を思い返すと、楽しいことばかりでした。留学生の皆さんとバス旅行に行ったり、柏高校の生徒たちと交流会に参加して下さったり、外国人留学生のスピーチコンテストに出場したりして、本当に今まで経験したことない体験がいっぱいで、とても充実した4ヶ月でした。

そして、浙江工商大学の授業とは違って二松学舎での授業は生徒数が少なく、先生ときちんと話すことができる機会が多いので、私の研究テーマを授業中に発表して先生方から色々な貴重な意見や読むべき本や資料をいただけて、とても助かります。年末には、先生方に連れてみんなで一緒に忘年会も何回参加しました。初めての忘年会体験だったので、最初はちょっと緊張しましたが、先生と雑談でどんどん盛り上がり、楽しく終わりました。生活上も、二松学舎の先生方は本当に優しく色々心配してくれて心から感謝しています。

二松学舎大学の九段キャンパスで勉強していますので、

電車に降りると北の丸公園がすぐ目の前です。次の授業を待っている間よく北の丸公園で弁当を食べたり、散歩したり、秋には紅葉を見たりして、すごくりフレッシュの時間になりました。都心でこんな静かな心を沈めるいい処があるのも日本の魅力じゃないかと思っています。

この一年間は多くの人のおかげで本当に楽しい留学生活になりました。もうそろそろ帰国ですが、帰国しても、二松学舎大学の皆さんと必ずどこかで会えると信じています。日本、またね。二松学舎大学の皆さん、またね。



沖縄の万座毛にて（筆者左）

平成29年度 秋セメスター交流会実施報告

二松学舎大学では、学生同士の国際交流および日本の自然・文化・歴史に触れることを目的に、留学生参加の小旅行を行っています。



秋の陽気に恵まれた交流会。埼玉県川越の集合写真（松本醤油工場にて）

今年度の留学生交流会は10月23日（日）に実施し、本学への留学生（北京大学・中国文化大学・浙江工商大学）と日本人サポーター学生の合計33名が、『小江戸』として観光客に人気の埼玉県・川越を訪れ、日本の食文化でもある「醤油」工場の見学、ガラス細工作成体験、小江戸散策を通じ、楽しみながら異文化体験と国際交流を行いました。

いろいろな国籍の留学生と日本人学生が、一日かけて国際交流を行いました。国際交流サポーターによる楽しいバス内アクティビティもあり、終始なごやかな雰囲気のなか、無事に終了しました。当日は天気にも恵まれ、秋の旅情を満喫しました。また参加したいという声がたくさん聞かれました。



伝統的な醤油つくりの工程を熱心に聞く参加者



日本食文化の脳役「はしおぎ」を作成体験する参加者（glass Art Blue moonにて）

附属柏高校との交流会を実施しました

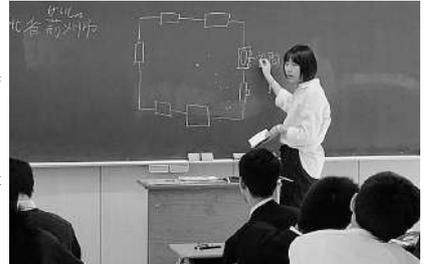
10月27日(木)、二松学舎大学の外国人留学生10名が附属柏高校を訪問し、第1学年9クラスの高校生との交流会を行いました。

毎年実施している外国人留学生と1年生の交流会は、高校生にとっては外国の文化や風習を身近に感じることができる良い機会であり、また留学生にとっては日本への理解をさらに深めるとともに、日本語で自国の文化を紹介する貴重な場となっています。

留学生は持参した母国の写真などを見せながら、自国の文化をわかりやすく説明しました。最初は緊張気味だった留学生も次第に緊張がとけ、いきいきと高校生たちに語りかけました。また、日本の印象や不思議に感じた部分の発表では、所々に笑いもあり、教室は一気に盛り上がりました。

交流会の後半では、高校生から質問の場を設けました。色々な質問が飛び、留学生たちは照れながらも嬉しそうに笑顔で質問に答えしていました。

交流会は短い時間ではありましたが、高校生にとっても、外国人留学生にとって貴重な機会となりました。



平成28年度第13回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催

平成28年11月26日(土)に九段キャンパス1号館202教室にて「第13回外国人留学生日本語スピーチコンテスト」が開催されました。今回は、海外協定校からの交換留学生7名及び大妻女子大学の留学生2名を含めた、中国・台湾・パングラディッシュ・モンゴル・韓国からの留学生12名が出場しました。参加した留学生にとっては、日頃の日本語学習の成果を試す絶好の場であり、この日のために練り上げられたスピーチは、どれも聞き応えのあるもので、観客も大いに盛り上がりました。

審査員による選考の結果、学長賞に選ばれたのは、台湾

からの交換留学生の孫季榆さんです。タイトルは「アニメからの宝物」。その他の各賞については、下記のとおりです。

今年で13回目の実施となりましたが、今回のコンテスト見学者の中には、教職員および日本人大学生はもちろんのこと、父母会の役員の方々も多数見学に来られ、大いに盛り上がったコンテストとなりました。

大勢の聴衆が見守る中で、自身の考えたスピーチを発表するという経験は、日常の大学生活では得られない貴重なものであり、参加した留学生にとっても、大変有意義なコンテストとなったかと思います。

◇1位 学長賞

「アニメからの宝物」

交換留学(台湾・中国文化大学)

孫季榆



◇2位 父母会賞受賞

「その笑顔は私にとって
一番大切な物だ」

交換留学(中国・浙江工商大学)

顔龍龍



◇3位 国際交流センター長賞

「私のダメ親父」

交換留学(中国・周口師範学院)

衛盼盼



◇審査員特別賞

「自分への手紙」

交換留学(台湾・中国文化大学)

林宜樺



学長賞受賞スピーチ

「アニメからの宝物」

交換留学（台湾・中国文化大学）孫 季榆

皆さんにとっては、アニメは何とご思いますか？アニメは動画と漫画の総称です。日本のアニメは世界の人々に知られています。私もアニメで日本語に興味を持つになり、日本に来ました。

しかし、すべての人がアニメを好きなわけではなく、かといって嫌いな人も少なくない。

多くの方はアニメにマイナスの印象を持っています。たとえ見ることがなくても、一方的にアニメはよくないものと考えられる傾向があると思います。しかし、わたしはそうは思っていません、むしろわたし自身はアニメに助けられました。

中学一年の時、わたしはヤンキーで、まだアニメに興味を持っていませんでした。あの時はよく授業中に寝たり、トランプしたり、先生をよく困らせました。しかし、アニメによって私は変わりました。初めてアニメを見たのはある夏休みの夜でした。面白い番組を探していた時、ふとアニメのチャンネルを見ました。見たことないものに、わたしの好奇心は掻き立てられました。見た後、わたしは初めて気付きました。「アニメってこんなに面白いものなんだ。」それ以来、わたしは完全にアニメの虜になりました。

アニメのために、わたしはヤンキーをやめて、オタクになりました。毎日毎日、頭の中を駆け巡ることは、こ

のアニメはここが良かった、ここが悪かったといったことです。こうして長い時間が過ぎ去り、いつの間にかアニメのおかげでだんだん日本語が話せるようになりました。わからない単語があれば、アニメの再生を一時停止し、辞書などで調べたり、メモしたりしました。この習慣のおかげで、わたしは望み通り希望の大学に入学することができました。それが中国文化大学の日本語学科です。ここで、わたしは今までの人生で一番良い友達が出てきて、いろいろな優しい人々と出会うことができました。

大学三年の時、ちょうど交換留学生の機会があって、先生と家族と相談したあと、参加することに決めました。そのための準備は本当に大変でした。自己紹介、自己アピール、面接対策、筆記試験問題の対策…などなど、ストレスは大きかったです。幸い、頑張った結果、「採用」されました。そのおかげで、今ここでスピーチを発表することができていることも、本当にうれしく思っています。

最後に、二つのことを話したいと思います。

- 一. いろいろなことは表面が見えた通りではない。
- 二. 何かを始めるにあたって、「揺るぎのない意志」とか「崇高な動機」なんてなくてもいい、スタートに必要なのは、ちょっとだけの好奇心くらい。

これがアニメから教えてもらった私の宝物です。

以上が私のスピーチです。ご清聴ありがとうございます。



平成28年度国際交流年末懇親会を開催

11月26日（土）、国際交流センター主催の外国人留学生日本語スピーチコンテストが行われ、引き続き国際交流年末懇親会が開催されました。アルカディア市ヶ谷「富士の間」に、留学生、教職員、父母会役員、日本人学生サポーターなど合計70名が集いました。

懇親会は、まず高野和基副学長から開会の挨拶をいただき、渡邊勝文父母会長の乾杯の音頭で始まりました。

参加した留学生たちは、本学の教職員や学生サポーターにとどまらず、普段接することの少ない父母会役員の方々とも積極的に交わり、にぎやかな懇親会となりました。

同会場にて外国人留学生日本語スピーチコンテストの表彰式も行われ、1位の「学長賞」に輝いた台湾・中国文化大学からの交換留学生、孫^{ソン}季^キ榆^ユさんが懇親会の場で再度スピーチを披露してくれました。また、今年度は日本人学生サポーターによる催しものもあり、クイズ大会では会場が大いに盛り上がり、会場にいた参加者の交流の輪が一層広がりました。

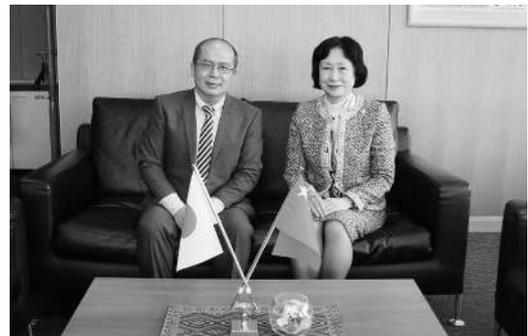
最後に、塩田今日子国際交流センター長より、閉会の挨拶をいただき、盛況のうちに閉会となりました。



平成28年度海外協定校教職員相互訪問制度に基づく教職員の来訪

平成29年1月26日（木）～2月2日（木）の日程で、北京大学歴史学系より、何晋教授が本学を訪問された。本学と北京大学歴史学系との海外協定校職員相互訪問制度は、平成13年度から始まり平成28年度で第15回目を迎えた。何晋教授は北京大学歴史学系の副主任で、中国古代史を専門に研究されている。本学で開催された記念講演では、「中国古代簡冊の“序連”」と題し講演を行い、多くの学生が熱心に耳を傾けていた。

期間中は東京観光を楽しみ、短期間ながら充実した日本滞在期間を過ごされた。



学長室にて表敬訪問

国際交流センターからのお知らせ

平成29年度 春セメスター留学生交流会

留学生同士および国際交流に関心の高い日本人学生の交流を目的として「留学生交流会」を実施します。

1. 日 程：平成29年4月15日（土）11：50～13：30
2. 開催場所：本学1号館13階ラウンジ
3. 対 象：本学に在籍する外国人留学生および国際交流サポーター学生
4. 参加費用：無料

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 E-mail：icenter1@nishogakusha-u.ac.jp